

低コストで効率的な施業に向けた取組

～コンテナ苗の活用、一貫作業システム、列状間伐の推進～

十勝東部森林管理署

【現状・課題・目的】

十勝管内の民有林では林業担い手の育成・確保が地域の大きな課題になっています。それに伴い、国有林には施業の省力化・軽労化に向けた様々な取組みと検証結果が求められています。

伐採と造林の一括発注によるコストダウン、列状伐採後の林地の状況、コンテナ苗の活着、大型機械地拵後の下刈作業の省力化について検証しており、低コストで効率的な施業に係る情報発信、現地検討会の開催、意見交換等に取り組んでいます。

【これまでの取組みや成果】

平成26年度から十勝3（支）署で「列状間伐施業の推進」に取り組む、現地検討会参加者や地域からの要望により、簡易で丈夫な森林作業道の作設、コンテナ苗植栽、大型機械による地拵作業を提案してきました。

民有林からの参加者は平成28年度56名、29年度は53名、大型機会地拵とコンテナ苗植栽後を検証した今年度は95名と、造林作業の省力化に対する関心の高さが窺えました。

【平成30年度の取組結果・成果】

①大型機械地拵、コンテナ苗植栽をした現地の1年後を検証

・造林作業の省力化のため、人力作業を減らすことを目的に開催した昨年度の検討会で「大型機械を活用した施業の経過を検証して欲しい」という声が多数あったことから同地で検討会を開催しました。

・列状伐採後の風倒被害、コンテナ苗の被害、森林作業道の損傷などの被害が見られず、また、ササ等の下層植生の回復が少なかったことから一定の成果があったものと考えます。

・「現地を見ることで一層理解が深まる」、「2年後も現状維持ができていないか非常に興味がある」といった意見があり、今後も引き続き検証していきます。



H30.8.7 一貫作業システム実行後の現地検討会

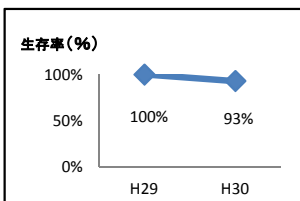
②秋植えコンテナ苗植栽1年後の活着と生長状況を確認

・十勝地方では寒風害等への懸念から秋植栽はほとんど行われていませんでしたが、植栽可能期間が長いというコンテナ苗のメリットを検証するため、平成29年度秋に大型機械地拵後に植栽したカラマツ苗の1年後の生長経過等を検証する検討会を開催しました。

・野兎被害はややあったものの、寒風害や凍害、下層植生の回復による被害はほぼなく、秋植栽でも被害がないことを説明しました。

・「重機の轍に水が溜まらないか気になる」、「傾斜地は刈幅に余裕が必要」といった意見があり、今後も現地の状況を検証していきます。

植栽（H29.9.27）1年後の生存率



今年度の取組で以下の成果がありました

町内の造林事業者に対してコンテナ苗を説明

・足寄町から、当署で取り組んでいる造林作業の省力化・軽労化の取組を地元の造林事業者へ情報提供して欲しいとの要望があり、9月21日に現地検討会を開催しました。

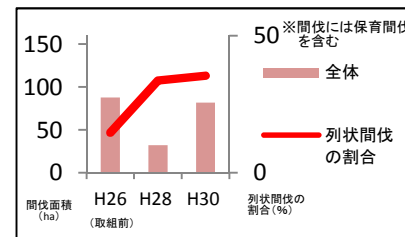


現地検討会では、育苗業者、林産試験場も参加しました。

列状間伐の普及が進みました

・効率的で安全な「列状間伐」を推進しているところですが、自治体により間伐すべき人工林が小面積で散在するなど

間伐面積と列状間伐の割合（陸別町の場合）



差はあるものの、取組当初から徐々に普及しており、引き続き当署管内民有林での普及を目指します。

コンテナ苗の植栽本数が増えました

・平成28年度に管内道有林と町有林合わせて約1.3千本植栽されて以降、年々植栽本数が増加し平成31年度には管内道有林で約4.6万本の植栽が計画されています。



【今後の取組みで目指すところ】

当署の低コストで効率的な施業の取組みの中でも、特に人力での作業が多い造林作業の省力化、軽労化に関する取組みの関心が高いことから、今年度取り組んだ箇所の生長調査等を継続し、グラフ化等により見える形で情報提供します。

また、下刈が不要な地拵や植栽仕様の検討を行います。

現地検討会等の開催にあたっては、実行管理推進チーム構成員の他に、民有林を主体に実施している事業者等にも案内し、民有林への普及を目指します。



H30.11 陸別町有林で初めて列状利用間伐を実施したカラマツ人工林（陸別町提供）

【今後の目標】

○低コストで効率的な施業の民有林への普及を目指します。